

## 8 授業の概要 (DP)

### GP 1 Language A –Literature(Standard/Higher)

	Standard/Higher Level	Higher Level
Part1 翻訳文学	日の名残り (イングロ)・異邦人 (カミュ)	人形の家 (イプセン)
Part2 精読学習	自選谷川俊太郎詩集・おくのほそ道 (芭蕉)	二十世紀旗手 (太宰治)
Part3 ジャンル別学習	山月記 (中島敦) 偷盗 (芥川龍之介) 今昔物語集	風の歌を聴け (村上春樹)
Part4 自由選択	夕鶴 (木下順二) 父と暮せば (井上ひさし) 棒になった男 (安部公房)	ダブリナーズ (ジョイス)

#### Standard/Higher Level

##### 第1期：学習および試験のスタイルを知る

DP 文学の学習方法と試験スタイルを知ること目標に、第1期は各パートの作品に一通り触れる。『自選谷川俊太郎詩集』では、さまざまな解釈の視点を身に付け、指定された作品の解釈をその場で述べる試験「口述コメンタリー」に向けての準備を行う。『山月記』では、小説の背景や構成、表現などを分担して発表・議論を行い、中国の伝奇「人虎傳」との比較から作者の意図を考察する。パート3の作品は試験問題2 (比較論評) の題材になる。『夕鶴』では小説とは異なる戯曲の特徴について理解を深める。パート4は自由にトピックを設定して表現する「口述プレゼンテーション」の題材になる。

##### 第2期：記述課題への取組を始める

『日の名残り』『異邦人』では、異なる文化的背景をもつ文学について議論する。登場人物どうし、あるいは作品と読者の間の価値観の摩擦を考える。第2期修了後、生徒は「記述課題」の取組を始める。

##### 第3期：口述試験に必要なスキルを伸ばす

戯曲『父と暮せば』『棒になった男』と芭蕉の『おくのほそ道』を読み、多様なジ

ャンルの作品に触れる。これらの作品は口述試験の対象になる。『おくのほそ道』は口述コメンタリーで出題される作品で、古文を素早く読む力も必要になる。

##### 第4期：広範な文学批評力を身に付ける

第4期は6年次からの学習になる。『山月記』と「人虎傳」を比較したように『偷盗』と『今昔物語集』を比較する。すべての作品を学んだ後、11月の最終試験に向けて演習を重ねる。初見の文学作品の論評を書く試験問題1を含め、短時間で高レベルな文学批評を書く思考力と記述力を身に付ける。

#### Higher Level

Standard Level における探究を踏まえて、より深い文学的考察を関連文献の多読とダイアログを通して深化する。

第1期には『風の歌を聴け』をテキストにして多角的な読み解きを重層化することにより、独自の分析を提言する。

第2期には『人形の家』の作品理解から合一的感情と分離的尊重の弁証法的考察を実証することから、「ひとつの事実」から「複数の真実」を導く分析を実践する。

第3期の太宰治、第4期のジョイスの多読を通して現代文学の実相に迫る。



